

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務 I	指導担当者名	就職担当職員
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	通年28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	就職活動を始める前の準備(自己理解、就きたい職業の決定)ができる。		
評価方法 評価基準	授業態度、提出物等		
使用教材	動画教材 SUCCESS		
授業外学習 の方法	学科授業を受けて、また、この授業を受けて将来自分のなりたい姿を常に考える事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介(発表) なぜ就職するのか(マインドマップ)【宿】働く意義を考える
	2	就職活動の心構え	宿題の振り返り、なぜ就職するのか【宿】好印象な服装
	3	就職活動での身だしなみ、企業が求める人材とは	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ、企業が求める人材を捉える
	4	就職活動の流れ	就職内定までの流れを把握し、自分の二年間をスケジュールリングする
	5	自分自身を知る	自己分析①小学校から高校時代までの自分史を作成する
	6	自分自身を知る	自己分析②現在の自分史を作成する 基礎編
	7	自分自身を知る	自己分析③現在の自分史を作成する 進化編
	8	自己PR文作成	自分史を参考に自己PR文を作成する
	9	自己PR発表	クラス内で自己PRを発表し、互いのいいポイントを参考にする
	10	職業を知る	自分の就きたい職業を考える、企業を調べる
	11	情報収集、企業研究、資料請求 1	企業を調べ、資料を請求する 企業への電話の仕方を習得する 就きたい職業に必要な仕事内容を理解する 求める人物像を考える
	12	情報収集、企業研究、資料請求 2	
	13	情報収集、企業研究、資料請求 3	
	14	期末試験(一般常識など)	自己PR文の再作成し、完成させる
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務 I	指導担当者名	就職担当職員
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	通年28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	就職活動を始める前の準備(就職試験のマナーを習得)ができる		
評価方法 評価基準	授業態度、提出物等		
使用教材	動画教材 SUCCESS		
授業外学習 の方法	学科授業を受けて、また、この授業を受けて将来自分のなりたい姿を常に考える事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期の振り返り、志望動機の作り方 1	前期に学んだことを振り返り、業界、会社にあった志望動機を考える
	2	志望動機の作り方 2	(実践編) 業界、会社にあった動機作り
	3	作成書類 1	3-8・3-8(実践編)、加えて3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2まで 履歴書、エントリーシート、添え状など
	4	作成書類 2	各種書類を書けるように、 また、封筒の書き方、その他の書類
	5	作成書類 3	(事務局の書類の手続き)、ポートフォリオなどの話しもしてください。 *履歴書の完成
	6	企業訪問	5-1.5-2 準備、当日、事後の指導をしてください
	7	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室
	8	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1
	9	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2
	10	筆記試験対策 1	5-5.5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る
	11	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	12	期末試験(一般常識など)	履歴書、入退室の確認は必須 時間があれば一般常識など
	13	期末試験振り返り	
	14	年間振り返り	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I	指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	各担当による		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	クロスオーバーゼミ I		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	各担当による			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。	
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。	
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。	
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	飼養管理士概論 I	指導担当者名	佐藤 智子
実務経験	トリミングサロンで3年以上の実務経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	愛玩飼養管理士2級 教本上下		
授業外学習の方法	予習復習 課題報告問題を解く		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第 I 編 愛玩動物飼養管理士の社会活動	第1章公益社団法人日本愛玩協会の目的・事業
	2		第2章愛玩飼養管理士
	3	第 II 編 動物愛護論 I	第1章人は動物をどのように見てきたのか
	4		第2章近代的動物愛護運動の始まり
	5		第3章現代の動物愛護運動との思想
	6	第 III 編 人と動物の関係学	第1章互いに影響しあう人と動物
	7		第2章人を支える動物たち
	8		第3章動物から子供が学ぶこと
	9	第 IV 編 動物関係法令概説	第1章動物と法律との関係
	10		第2章動物の愛護及び管理に関する法律
	11		第3章動物の飼養及び保管に関する基準法
	12		第4章家庭飼育動物に関わる関係法令
	13		第5章野生動物にかかわる関係法令
	14	期末テスト	期末テスト
	15		
	16		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

授業計画(シラバス)			
科目名	飼養管理士概論 I		指導担当者名 佐藤 智子
実務経験	ドッグトリミングで3年以上の実務経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	愛玩飼養管理士2級 教本上下		
授業外学習の方法	予習復習 課題報告問題を解く		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	第Ⅴ編動物のからだの仕組みと働き	第1章体の基本の仕組み
	2		第2章栄養を取り入れる
	3		第3章酸素を取り入れる
	4		第4章老廃物の排出、異物の撃退と解毒
	5		第5章情報を取り入れる
	6		第6章体内の情報伝達
	7		第7章子どもを産み育てる
	8	第Ⅵ編動物の飼養管理	第1章動物の飼養管理(総論)
	9		第2章犬の飼養管理 第3章猫の飼養管理
	10		第4章その他の哺乳類の飼養管理 第5章鳥類の飼養管理
	11	第Ⅶ編動物のしつけ	第1章学習理論 第2章犬と猫の社会化
	12		第3章犬のしつけの基本
	13		第4章室内飼育猫の死受け基本
	14	期末テスト	期末テスト
	15		
	16		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習 I		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	通年56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	PCの基本的な操作を学び、wordを使ってはがきや広告などを作成することができる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	word2019クイックマスター 基本編			
授業外学習の方法	自宅での教材復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ クイックマスターをPCに取り込む	
	2	Word基礎①	wordの基本	
	3	Word基礎②	文字の入力と編集の基本操作	
	4	Word基礎③	文書の編集	
	5	Word基礎④	文書の印刷	
	6	実践練習1	犬の解説文を作成する	
	7	Word基礎⑤	文書の作成	
	8	Word基礎⑥	表を使った文書の作成	
	9	Word基礎⑦	図形や画像を使った文書の作成	
	10	実践練習2-1	画像を使って広告を作る	
	11	実践練習2-2	画像を使って広告を作る	
	12	演習問題1	テキストを使って演習	
	13	演習問題2	テキストを使って演習	
	14	期末試験	資料作成	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	PC演習 I		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	通年56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	PCの基本的な操作を学び、wordを使ってはがきや広告などを作成することができる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Excel2019クイックマスター 基本編			
授業外学習の方法	自宅での教材復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	前期復習、Excel導入	前期の復習・確認と今後の流れ確認 クイックマスターをPCに取り込む	
	2	Excel基礎①	chapter1	
	3	Excel基礎②	chapter2	
	4	Excel基礎③	chapter3	
	5	Excel基礎④	chapter4	
	6	実践練習①	顧客リストを作成	
	7	Excel基礎⑤	chapter5	
	8	Excel基礎⑥	chapter6	
	9	Excel基礎⑦	chapter7	
	10	実践練習②-1	売上管理をする	
	11	実践練習②-2	売上管理をする	
	12	演習問題1	テキストを使って演習	
	13	演習問題2	テキストを使って演習	
	14	期末試験	資料作成	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	犬学 I	指導担当者名	坂元 幸江
実務経験	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の基礎知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	めざせ早期発見！わかる犬の病気		
授業外学習の方法	病気について予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	第1トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気	1 全身チェック
	2	第1トリミング前に確認したい全身チェックとうつる病気	2 人や動物にうつる恐れのある病気
	3	第2章早期発見するための部位別病気の知識	1 皮膚の病気
	4	第2章早期発見するための部位別病気の知識	2 耳の病気
	5	第2章早期発見するための部位別病気の知識	3 目の病気
	6	第2章早期発見するための部位別病気の知識	4 鼻と口の病気
	7	第2章早期発見するための部位別病気の知識	5 おしり・お腹周りの病気
	8	第2章早期発見するための部位別病気の知識	6 足先・膝・腰まわりの病気
	9	第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識	1 シャンプーの基礎知識
	10	第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識	2 トリミングサロン・ペットショップ内の正しい清掃・消毒方法
	11	第3章トリマーペットショップスタッフ必須の基礎知識	3 ワクチンの基礎知識
	12	前期期末試験対策	復習
	13	前期期末試験対策	復習
	14	前期期末試験	前期期末試験
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

授業計画(シラバス)				
科目名	犬学 I		指導担当者名	坂元 幸江
実務経験	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある		実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の基礎知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	めざせ早期発見！わかる犬の病気			
授業外学習の方法	病気について予習復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	第4章飼い主さんへの病気説明	アレルギー、外耳炎、角膜炎	
	2		肛門嚢炎、股関節形成不全、子宮蓄膿症、	
	3		歯周病、糖尿病、	
	4		白内障、緑内障、	
	5		結膜炎	
	6		マダニ、ノミについて	
	7	第5章トリミングトラブル	1 爪切りで出血させてしまった	
	8		2 目がしょぼしょぼする	
	9		3 フケが多くなった	
	10		4 嘔吐、下痢	
	11		5 血尿がでてしまった	
	12		6 片足立ちになっている、足腰が立たない	
	13		7 足先をなめている 8いぼや皮膚を切ってしまった	
	14	後期期末テスト	後期期末テスト	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)			
科目名	ペット美容演習 I	指導担当者名	平田 芳子
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> スタンドの理解と、各犬体各種のカット、クリッピングの手順、形、ラインなどを学ぶ。 実社会で使用する最低限度の用語等を習得する。モデル犬受付業務の流れ。</p> <p><到達目標> カットスタイル習得。一人で2~3時間以内で仕上げまでトリミング実習での実践できるようにする。モデル犬受付業務の習得。バリカン使用の習得。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日本ペットビジネススクール協会 ペット美容学 インターズー プロフェッショナルワークブック		
授業外学習の方法	ペット美容学教科書の予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介
	2	犬体用語・毛色用語・被毛用語・ペット美容用語	犬体各部の名所
	3	GM道具の手入れについて	道具の取り扱い
	4	ペット美容用語	用語解説
	5	トリミング用具・ハサミ	ハサミの手入れについて
	6	ハサミの基本技法	ハサミの持ち方
	7	ブラシ、コーム、クリッパー	取り扱い
	8	爪切り、ドライヤー、テーブル	使い方
	9	リボンの作り方	実践で使える手作りリボンの解説
	10	爪の手入れ	犬の爪切り
	11	パッド、目、歯の手入れ	パッドの手入れ、目の手入れ、歯の手入れ
	12	耳の手入れ 肛門の手入れ	耳の手入れ 耳の中の毛を抜く 耳の汚れをふき取る 肛門囊の絞り方
	13	シャンプー ドライング	シャンプーの必要性 シャンプーの目的 シャンプーの前処理 シャンプーの弊害と対策
	14	まとめ	期末試験
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	ペット美容演習 I		指導担当者名	平田 芳子
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p><科目主旨> スタンドの理解と、各犬体各種のカット、クリッピングの手順、形、ラインなどを学ぶ。 実社会で使用する最低限度の用語等を習得する。モデル犬受付業務の流れ。</p> <p><到達目標> カットスタイル習得。一人で2~3時間以内で仕上げまでトリミング実習での実践できるようにする。モデル犬受付業務の習得。バリカン使用の習得。</p>			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	日本ペットビジネススクール協会 ペット美容学 インターズー プロフェッショナルワークブック			
授業外学習の方法	ペット美容学教科書の予習復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	リンシング	リンシングの目的 リンス剤の種類	
	2	作業困難な犬柄の対処	安全な保定のしかた	
	3	マルチーズのグルーミング	シザー仕上げ クリッパー仕上げの方法	
	4	ヨークシャテリアのグルーミング	ペットトリムとショークリップの違い	
	5	シーズーのグルーミング	ペットトリムとショークリップの違い	
	6	ポメラニアン of グルーミング	ショークリップ 柴カット について	
	7	アメリカンコッカースパニエルのペットトリム	クリッパーの使い方	
	8	アメリカンコッカースパニエルのショートトリム	クリッパーとスキバサミの取り扱い	
	9	プードルのペットクリップ	ラムクリップ スイートハート ダッチ ハリウッド マイアミ	
	10	プードルのショークリップ	パピークリップ コンチネンタル イングリッシュサドルクリップ	
	11	プードル各部の仕上げ	ボンポンの作り方、スウェル、プレスレッド、ローゼット、レッグバリエーション	
	12	プードルの理想体型	ドワーフタイプとハイオンタイプの違い	
	13	トイプードル(ラムクリップ)	作業工程と注意点	
	14	まとめ	期末試験	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	POP・イラスト実習		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	28時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ショップ運営時に使用する様々な広告を描けるようになることを目的とする。 ・デザイン文字、各種ペットのイラストなど、可愛くアピールできるように描く。 ・アピールできる色とデザインを学ぶ 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	テキスト等特になし。講師が要したプリントを使用。			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習	
	2	デザイン文字①	書体の紹介(明朝体、ゴシック体各丸と角)とトレース	
	3	デザイン文字②	角ゴシック体と丸ゴシック体の描画①	
	4	デザイン文字③	角ゴシック体と丸ゴシック体の描画②	
	5	デザイン文字④	明朝体の描画①	
	6	デザイン文字⑤	明朝体の描画②	
	7	漢字のデザイン文字①	漢字での各種書体での描画①	
	8	漢字のデザイン文字②	漢字での各種書体での描画②	
	9	動物の描画①	犬の描き方①	
	10	動物の描画②	犬の描き方②	
	11	動物の描画③	猫の描き方①	
	12	動物の描画④	猫の描き方②	
	13	後期最終課題制作	モノクロでの犬と猫を表現する	
	14	振り返り	授業内容の振り返り、レポート作成	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	サービス接遇概論	指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	ペット総合科 1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	2時間
学習到達目標	基本的な接遇の知識の習得。接遇時の動作習得。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	サービス接遇検定2級・3級		
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習
	2	確認テスト	テキストP194-208
	3	サービススタッフの資質	テキストP16-42
	4	専門知識	テキストP44-82
	5	一般知識	テキストP83-110
	6	一般知識②	テキストP112-116
	7	対人技能	テキストP118-144
	8	対人技能②	テキストP145-156
	9	実務技能	テキストP158-168
	10	実務技能②	テキストP170-192
	11	実技	接客対応を実践
	12	実技②	金銭授受の対応を実践
	13	前期テスト	前期の内容を振り返る
	14	振り返り	授業内容の振り返り、レポート作成
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	トリミング実習 I		指導担当者名	平田 芳子	
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	168時間		週時間数	6時間	
学習到達目標	<p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p><到達目標> 一通りのトリミング作業を一人で出来るようになる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	トリミング道具一式				
授業外学習の方法	犬種にあったトリミング方法を予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	復習 モデル犬実習	作業の流れ、道具の使い方、コミュニケーションを重点指導		
	2	モデル犬実習	爪切り 下処理確認		
	3	モデル犬実習	耳掃除 シャンプー ブロー		
	4	モデル犬実習	ブードルのモデル犬カット		
	5	モデル犬実習	チワワのモデル犬カット		
	6	モデル犬実習	シーズーのモデル犬カット		
	7	モデル犬実習	ヨークシャテリアのモデル犬カット		
	8	モデル犬実習	ボメラニアンモデル犬カット		
	9	モデル犬実習	ビションフリーゼモデル犬カット		
	10	モデル犬実習	ダックスフントのモデル犬カット		
	11	モデル犬実習	ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット		
	12	モデル犬実習	シュナウザーのモデル犬カット		
	13	モデル犬実習	MIX犬のモデル犬カット		
	14	モデル犬実習 前期反省	ゴールデンレトリバーのモデル犬カット		
	15				
	16				
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	トリミング実習 I		指導担当者名	平田 芳子
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。			実務経験: 無
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	168時間	週時間数	6時間	
学習到達目標	<p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	トリミング道具一式			
授業外学習の方法	犬種にあったトリミング方法を予習復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	モデル犬実習	ブードル、シーズーのモデル犬カット	
	2	モデル犬実習	ブードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット	
	3	モデル犬実習	ブードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット	
	4	モデル犬実習	ブードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット	
	5	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット	
	6	モデル犬実習	ブードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット	
	7	モデル犬実習	ブードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット	
	8	モデル犬実習	ブードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット	
	9	モデル犬実習	ブードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット	
	10	モデル犬実習	ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット	
	11	モデル犬実習	ブードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット	
	12	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット	
	13	モデル犬実習	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット	
	14	モデル犬実習 反省	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット	
	15			
	16			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング演習 I	指導担当者名	渡辺 亮
実務経験	訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	168時間	週時間数	6時間
学習到達目標	<p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受ける事が出来る 飼い主さんへの総合的なアドバイスができる</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日本ペット技能専門学校協会 トレーニング教科書		
授業外学習の方法	教科書での予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介
	2	トレーニングの必要性	しつけ 訓練について
	3	犬の習性を理解する	犬の精神的本質の構成
	4	トレーニングの方針	犬種による性格の格差を知る 日常生活の中でトレーニング
	5	子犬の社会化期	仲間との接し方を学ぶ、人との接し方を学ぶ
	6	犬の問題行動	支配性の徴候 支配性の阻止 アルファシンドローム 分離不安 無駄吠え
	7	リーダーとして認めさせる	飼い主と犬、トレーナーと犬との主従関係
	8	アイコンタクト	アイコンタクトを教える
	9	モチベーター	モチベーターで誘導する
	10	飼育犬の空間認識	家庭で飼育される犬の空間認識
	11	ほめる事と叱る事	オペラント式訓練技法
	12	社会性を養う	他の犬に慣れさせる
	13	トイレのしつけ	サークル内をトイレとする方法
	14	食事のしつけ	「すわれ」「まで」「よし」
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング演習 I		指導担当者名	渡辺亮	
実務経験	訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	168時間		週時間数	6時間	
学習到達目標	<p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受ける事が出来る 飼い主さんへの総合的なアドバイスができる</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	日本ペット技能専門学校協会 トレーニング教科書				
授業外学習の方法	教科書での予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	音符、視符	「おいで」「こい」		
	2	トレーニングの開始と終了	トレーニング終了の始まりと終わりを犬に伝える		
	3	集中力を再生する	犬の集中力を再生する		
	4	「スワレ」	座ること 子犬を遊ばせながら教える 食事を利用して教える 強制を伴うスワレ		
	5	伏せからスワレ	「フセ」の姿勢から「スワレ」		
	6	行進中のスワレ	脚測行進中のスワレ		
	7	後方から脚側停座	基本動作について		
	8	左側から脚側停座	基本動作について		
	9	「フセ」	「フセ」の視符		
	10	脚測行進	タッチの視符		
	11	脚測行進	スワレからのタッチ		
	12	脚測行進	タツテの視符		
	13	脚測行進	スワレからのタツテ		
	14	講評	まとめ		
	15				
	16				
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>					

授業計画(シラバス)				
科目名	ペット総合演習 I		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	ペット総合科 1年
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	56時間		週時間数	2時間
学習到達目標	<p>就職に向けて実践的な知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>①受付係:トリミング実習の際、受付をし、お客様からのオーダーを聞いたり、犬を預かったりする。</p> <p>②会計係:サロン実習の際、お客様から料金をお預かりし、領収書を渡す。また、その日の売り上げの確認と、20日×で一か月分の売り上げを事務局に渡す。</p> <p>③消耗品管理、掃除係:ペット総合科で使用している用品の在庫をチェックし、補充したいものを担任に報告する。また、教室、実習室のごみ捨てを担当する。</p> <p>④SNS/掲示板係:実習の様子やカットの仕上がりの写真など、PT総合科Instagramに投稿する。また、教室内と廊下の掲示板にPT総合科の事に関する内容の掲示物(新聞やペット自慢等)を作成する。</p> <p>⑤オープンキャンパス係:オープンキャンパスの学生スタッフとして、来校した学生や保護者の対応、また、体験実習での実演をする。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	筆記用具、PC等			
授業外学習の方法	グループ内で共有したい情報や、学科内に発信したい情報などを考える。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	一年間の授業の流れや目的の理解 グループ編成(5グループ)	
	2	各班での活動	・1,2年生合同の5つのグループにわかれ、各自担当の係を受け持つ。1~2か月ごとのローテーションで係を変えていく。	
	3	各班での活動1-1	○初回なので改善ポイント、よくできたポイント等随時まとめさせる。	
	4	各班での活動1-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	5	各班での活動1-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	6	特別授業(外部企業による講演)	トリミングサロンえお経営している方による、現在のペット業界についての講演	
	7	報告会1、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	8	各班での活動2-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	9	各班での活動2-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	10	各班での活動2-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	11	報告会2、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	12	各班での活動3-1	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	13	各班での活動3-2	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	14	報告会3(前期振り返り)、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。また、前期の班としての反省をする。	
	15	期末試験フィードバック	夏休み期間、OCに参加する学生の確認と打ち合わせ。	
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ペット総合演習 I		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p>就職に向けて実践的な知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>①受付係: トリミング実習の際、受付をし、お客様からのオーダーを聞いたり、犬を預かったりする。</p> <p>②会計係: サロン実習の際、お客様から料金をお預かりし、領収書を渡す。また、その日の売り上げの確認と、20日㍻で一か月分の売り上げを事務局に渡す。</p> <p>③消耗品管理、掃除係: ペット総合科で使用している用品の在庫をチェックし、補充したいものを担任に報告する。また、教室、実習室のごみ捨てを担当する。</p> <p>④SNS/掲示係: 実習の様子やカットの仕上がりの写真など、PT総合科インスタグラムに投稿する。また、教室内と廊下の掲示板にPT総合科の事に関する内容の掲示物(新聞やペット自慢等)を作成する。</p> <p>⑤オープンキャンパス係: オープンキャンパスの学生スタッフとして、来校した学生や保護者の対応、また、体験実習での実演をする。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	筆記用具、PC等			
授業外学習の方法	グループ内で共有したい情報や、学科内に発信したい情報などを考える。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	前期振り返りと後期の目標設定	各班ごとに前期の振り返りをし、こうきの活動の目標と計画を立てる。	
	2	各班での活動4-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	3	各班での活動4-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	4	各班での活動4-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	5	報告会4、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	6	各班での活動5-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	7	各班での活動5-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	8	各班での活動5-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	9	報告会5、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	10	各班での活動6-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	11	各班での活動6-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	12	各班での活動6-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	13	報告会6(後期振り返り)、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	14	一年間の振り返り 次年度に向けての引継ぎ	1年間を通しての活動の反省をし、各班でまとめる。次年度への引継ぎや改善事項も話し合い、発表する。	
	15	期末試験フィードバック	春休み期間OCに参加する学生の確認と打ち合わせ。	
	16	期末試験フィードバック		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>				

授業計画(シラバス)				
科目名	コミュニケーション演習		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	通年2単位	週時間数	7月単月の授業/28時間	
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト			
授業外学習の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明	
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く	
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する	
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する	
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる	
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く	
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する	
	8	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-1来客対応、1-2電話対応	
	9	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性	
	10	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション	
	11	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業、2-2クレーム対応	
	12	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接	
	13	検定対策	模擬試験	
	14	期末試験	検定本番	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I		指導担当者名	佐藤 美希子	
実務経験				実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	ペット総合科 1年		
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間		
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科で学んだ内容を活かした作品制作 ・テーマを掲げ対象者を意識した作品制作 ・自らの作品をアピールするプレゼンテーションが出来る 				
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で1年間の集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」 				
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事				
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事				
学期	ターム (週)	授業計画 後期			
授業計画 後期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる		
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく		
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても可視化していく		
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など		
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作		
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする		
			事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる		
			履修上の留意点 個別添削を行いながら制作を進めていく		
	履修上の留意点				
	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、発表機会を与えない ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンを実施 そこで一定の評価があれば合格とする ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科2、3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	通年28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	就職活動指導 * 学生の進路にあわせて柔軟に指導してください。 (プロ希望、業界志望、その他企業志望)			
評価方法 評価基準	授業態度、提出物等上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	動画教材 SUCCESS			
授業外学習の方法	学科授業を受けて、また、この授業を受けて将来自分のなりたい姿を常に考える事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	1年次の確認	履歴書、入退室の確認	
	2	受験後の報告	動画なし 受験後の報告と内定後の生活、不合格した場合の振り返り	
	3	就職試験のマナー	5-1~5-2まで 面接、試験時の確認	
	4	巻末資料確認	"以前のテキストサクセス参照 P39~45 P94" 各種ビジネス文章の書き方やメール、インターネットを使用したときの注意"	
	5	履歴書確認 1	3-8 全体の書き方の見直し	
	6	履歴書確認 2	3-4~3-6-2 自己PRの見直し	
	7	履歴書確認 3	3-7~3-8 志望動機の見直し	
	8	履歴書確認 4	3-1~3-3,3-6~3-6-2 履歴書にふさわしい文章の書き方の見直し	
	9	面接対策 1	4-1~4-5 面接での振る舞いについて	
	10	面接対策 2	4-1~4-5 面接で緊張をした時の対策,緊張しないための対策	
	11	面接対策 3	4-1~4-5 面接での話し方について	
	12	個別指導	履歴書完成	
	13	期末試験	プリントによるテスト	
	14	期末試験フィードバック		
	15			
	16			
履修上の留意点				
*適宜一般教養の問題集も使ってテストをしてください。特に各期末試験で必ず入れてください。 *途中で就職研修が入ります。その時まで履歴書を書けるようにしておきましょう。 *各学科、各学生の様子を見ながら弾力的に進めてもらって結構です。 ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務Ⅱ	指導担当者名	就職担当職員
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科2、3年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	通年28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	就職活動を始める前の準備		
評価方法 評価基準	授業態度、提出物等		
使用教材	動画教材 SUCCESS		
授業外学習 の方法	学科授業を受けて、また、この授業を受けて将来自分のなりたい姿を常に考える事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期の確認	履歴書、入退室の確認
	2	受験後の報告	P90~93 受験後の報告と内定後の生活、不合格した場合の振り返り
	3	就職試験のマナー	P66~89 面接、試験時の確認
	4	巻末資料確認	
	5	履歴書確認 1	
	6	履歴書確認 2	
	7	履歴書確認 3	自己PRの見直し
	8	筆記試験対策 1	P82~89 各種適性検査、一般常識、作文
	9	筆記試験対策 2	P82~89 各種適性検査、一般常識、作文
	10	筆記試験対策 3	P82~89 各種適性検査、一般常識、作文
	11	個別指導	個人の状況に合わせて指導
	12	個別指導	個人の状況に合わせて指導
	13	個別指導	個人の状況に合わせて指導
	14	期末試験	作文「卒業後の進路と抱負」800字程度で
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない *適宜一般教養の問題集も使ってテストをしてください。特に各期末試験で必ず入れてください。 *途中で就職研修が入ります。その時まで履歴書を書けるようにしておきましょう。 *各学科、各学生の様子を見ながら弾力的に進めてもらって結構です。 ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)			
科目名	トリミング実習Ⅱ	指導担当者名	平田 芳子
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	168時間	週時間数	6時間
学習到達目標	<p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p><到達目標> 一通りのトリミング作業を一人で出来るようになる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	トリミング道具一式		
授業外学習の方法	トリミング作業の予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	復習 モデル犬実習	作業の流れ、道具の使い方、コミュニケーションを重点指導
	2	モデル犬実習	ブードル、シーズーのモデル犬カット
	3	モデル犬実習	ブードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット
	4	モデル犬実習	ブードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット
	5	モデル犬実習	ブードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット
	6	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット
	7	モデル犬実習	ブードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット
	8	モデル犬実習	ブードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット
	9	モデル犬実習	ブードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット
	10	モデル犬実習	ブードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット
	11	モデル犬実習	ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット
	12	モデル犬実習	ブードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット
	13	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット
	14	モデル犬実習 前期反省	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	トリミング実習Ⅱ		指導担当者名	平田 芳子
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	通年168時間	週時間数	6時間	
学習到達目標	<p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通じ、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通じコミュニケーション能力の向上を図る。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	トリミング道具一式			
授業外学習の方法	トリミング作業の予習復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	モデル犬実習	ブードル、シーズーのモデル犬カット	
	2	モデル犬実習	ブードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット	
	3	モデル犬実習	ブードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット	
	4	モデル犬実習	ブードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット	
	5	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット	
	6	モデル犬実習	ブードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット	
	7	モデル犬実習	ブードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット	
	8	モデル犬実習	ブードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット	
	9	モデル犬実習	ブードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット	
	10	モデル犬実習	ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット	
	11	モデル犬実習	ブードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット	
	12	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット	
	13	モデル犬実習	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット	
	14	モデル犬実習 反省	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット	
	15			
	16			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ	指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	各担当による		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	全学科2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習するし、視野を広げ見地高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	各担当による			
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。	
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	8	選択基礎1	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎2	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎3	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎4	各選択授業においてそれぞれの分野の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎5	各選択授業において学んだことを最終レポート提出。	
	13	特別授業1	前期末最後の選択授業を2回で実施する。	
	14	特別授業2	前期末最後の選択授業を2回で実施する。	
	15	期末試験フィードバック		
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	トリミングサロン実習	指導担当者名	平田 芳子
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	通年336時間	週時間数	12時間
学習到達目標	<p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通し、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p><到達目標> 一通りのトリミング作業を一人で出来るようになる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	トリミング道具一式		
授業外学習の方法	トリミング作業手順を予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	復習 モデル犬実習	作業の流れ、道具の使い方、コミュニケーションを重点指導
	2	モデル犬実習	ブードル、シーズーのモデル犬カット
	3	モデル犬実習	ブードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット
	4	モデル犬実習	ブードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット
	5	モデル犬実習	ブードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット
	6	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット
	7	モデル犬実習	ブードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット
	8	モデル犬実習	ブードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット
	9	モデル犬実習	ブードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット
	10	モデル犬実習	ブードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット
	11	モデル犬実習	ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット
	12	モデル犬実習	ブードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット
	13	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット
	14	モデル犬実習 前期反省	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット
	15		
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

授業計画(シラバス)			
科目名	トリミングサロン実習		指導担当者名 平田 芳子
実務経験	ドッグトリミングの分野で10年超の実務実績がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	通年336時間	週時間数	12時間
学習到達目標	<p><科目主旨> モデル犬のトリミングを通じ、トリミング技術の向上と動物と接する際の心構え等を習得を図る。グループ行動を通じコミュニケーション能力の向上を図る。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	トリミング道具一式		
授業外学習の方法	トリミング作業手順を予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	モデル犬実習	ブードル、シーズーのモデル犬カット
	2	モデル犬実習	ブードル、シーズー、ポメラニアンモデル犬カット
	3	モデル犬実習	ブードル、ヨークシャテリア、ダックスフントのモデル犬カット
	4	モデル犬実習	ブードル、チワワ、マルプーのモデル犬カット
	5	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ゴールデンレトリバーのモデル犬カット
	6	モデル犬実習	ブードル、パピヨン、ヨークシャテリアのモデル犬カット
	7	モデル犬実習	ブードル、ポメラニアン、チワワのモデル犬カット
	8	モデル犬実習	ブードル、シュナウザー、ペキニーズのモデル犬カット
	9	モデル犬実習	ブードル、ビションフリーゼ、ヨークシャテリアのモデル犬カット
	10	モデル犬実習	ブードル、ビーグル、MIX犬のモデル犬カット
	11	モデル犬実習	ブードル、イングリッシュセッター、シェットランドシープドッグのモデル犬カット
	12	モデル犬実習	ブードル、柴犬、ジャックラッセルのモデル犬カット
	13	モデル犬実習	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット
	14	モデル犬実習 反省	ブードル、ラフコリー、ポメプーのモデル犬カット
	15		
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習Ⅱ		指導担当者名	渡辺 亮	
実務経験	訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	通年336時間		週時間数	12時間	
学習到達目標	<p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受ける事が出来る 飼い主さんへの総合的なアドバイスができる</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	日本ペット技能専門学校協会 トレーニング教科書				
授業外学習の方法	トレーニング教科書の予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の説明		
	2	座って「マテ」	座ってマテ「対面して離れる」 脚測行進中の座って「マテ」		
	3	伏せて「マテ」	脚測行進中の伏せて「マテ」		
	4	立って「マテ」	脚測行進中の視符と練習 脚測行進中の立って「マテ」		
	5	「コイ」	コイを教える 呼ばれてくる リードを使ったトレーニング 「コイ」から脚測定座		
	6	「脚側行進」	リーダーウォーク 脚測行進の視符「アトエ」 犬の引き癖を矯正する		
	7	行進中の「右ターン」	脚測行進中の右ターンの注意点		
	8	行進中の「左ターン」	脚測行進中の左ターンの注意点		
	9	行進中の「Uターン」	脚測行進中のUターンの注意点		
	10	行進中の「速さの変更」	早いペースの脚測行進 遅いペースの脚測行進		
	11	「ヤスメ」	ヤスメ姿勢		
	12	「ホエロ」	「吠えろ」と「静かに」 吠えろのトレーニング		
	13	「モッテコイ」1 「モッテコイ」2	モチベーションの上げ方		
	14	前期の反省と講評	実技試験		
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施					

授業計画(シラバス)

科目名	トレーニング実習Ⅱ	指導担当者名	渡辺 亮
実務経験	訓練士としてしつけ教室、災害救助犬・警察犬の育成などの業務に10年以上従事		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)
授業方法	講義：	演習：	実習：○ 実技：
時間数	通年336時間	週時間数	12時間
学習到達目標	<p><科目主旨> 動物についての基本的なしつけや訓練の知識を総合的に養う</p> <p><到達目標> 家庭犬トレーニングインストラクターの資格を受ける事が出来る 飼い主さんへの総合的なアドバイスができる</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日本ペット技能専門学校協会 トレーニング教科書		
授業外学習の方法	トレーニング教科書の予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	「トベ」	障害飛越 掛け声のかけ方
	2	「センドアウエイ」1	センドアウエイのモチベーター
	3	「センドアウエイ」2	トレーニングと注意点
	4	「遠隔操作」	スワレからタツテ フセからスワレ フセからタツテ
	5	「嗅覚識別」	嗅覚識別と犬の本能
	6	グットシチズン・ドック計画	ヒール リコール ステイにつて
	7	KC服従トレーニング試験	KC服従トレーニング試験についての概要と説明
	8	アジリティ	競技方法 説明
	9	フライングディスク・ドック	ディスタンス フリースタイル ロングスロー 用語説明
	10	フライボール	協議説明
	11	トレーナーとクライアント	助言の方法 クライアントとの面接 デモンストレーション
	12	総合トレーニング	デモンストレーション見学
	13	用語確認	復習と確認テスト
	14	後期の反省と講評	実技試験
	15		
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	犬学Ⅱ	指導担当者名	坂元 幸江
実務経験	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	通年56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の応用知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	看護学教本		
授業外学習の方法	病気について予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	内科学	救急医療
	2	内科学	中毒
	3	内科学	出血
	4	内科学	日射病・熱中症
	5	内科学	ショック
	6	内科学	輸液治療(輸液、採血時の準備と保定)
	7	臨床検査学	血液検査
	8	臨床検査学	ヘマトクリット
	9	臨床検査学	血液塗抹標本
	10	臨床検査学	顕微鏡検査
	11	臨床検査学	尿検査、糞便検査
	12	前期期末試験対策	復習
	13	前期期末試験対策	復習
	14	前期期末試験	前期期末試験
	15		
	16		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

授業計画(シラバス)			
科目名	犬学Ⅱ		指導担当者名 坂元 幸江
実務経験	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
時間数	通年56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨> ・動物の取り扱いや日常的な管理を行う為の応用知識の習熟を目指す。</p> <p><到達目標> ・動物看護にて知識を得て、動物達へストレスがかからないように適切なケアができること。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点：優)、B(70点~79点：良)、C(60点~69点：可)、D(0点~59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	看護学教本		
授業外学習の方法	病気について予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	介護学	犬の老化
	2	介護学	ペットの高齢化
	3	介護学	高齢犬介護の心構え
	4	介護学	高齢犬の病気
	5	介護学	高齢犬の食餌管理
	6	介護学	食餌の介助
	7	介護学	犬の床ずれ
	8	介護学	犬の痴呆症
	9	介護学	排泄の介助
	10	介護学	散歩の効用
	11	介護学	介護と臭い対策
	12	介護学	介護士と医療行為
	13	介護学	介護動物とマッサージ、飼育者と介護士
	14	後期期末テスト	後期期末テスト
	15		
	16		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)				
科目名	ペット総合演習Ⅱ		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	ペット総合科 2年
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	56時間		週時間数	2時間
学習到達目標	<p>就職に向けて実践的な知識や技術を身に付けることができる。</p> <p>①受付係:トリミング実習の際、受付をし、お客様からのオーダーを聞いたり、犬を預かったりする。</p> <p>②会計係:サロン実習の際、お客様から料金をお預かりし、領収書を渡す。また、その日の売り上げの確認と、20日×で一か月分の売り上げを事務局に渡す。</p> <p>③消耗品管理、掃除係:ペット総合科で使用している用品の在庫をチェックし、補充したいものを担任に報告する。また、教室、実習室のごみ捨てを担当する。</p> <p>④SNS/掲示板係:実習の様子やカットの仕上がりの写真など、PT総合科インスタグラムに投稿する。また、教室内と廊下の掲示板にPT総合科の事に関する内容の掲示物(新聞やペット自慢等)を作成する。</p> <p>⑤オープンキャンパス係:オープンキャンパスの学生スタッフとして、来校した学生や保護者の対応、また、体験実習での実演をする。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	筆記用具、PC等			
授業外学習の方法	グループ内で共有したい情報や、学科内に発信したい情報などを考える。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	一年間の授業の流れや目的の理解 グループ編成(5グループ)	
	2	各班での活動	・1,2年生合同の5つのグループにわかれ、各自担当の係を受け持つ。1~2か月ごとのローテーションで係を変えていく。	
	3	各班での活動1-1	○初回なので改善ポイント、よくできたポイント等随時まとめさせる。	
	4	各班での活動1-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	5	各班での活動1-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	6	特別授業(外部企業による講演)	トリミングサロンえお経営している方による、現在のペット業界についての講演	
	7	報告会1、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	8	各班での活動2-1	○各級の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	9	各班での活動2-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	10	各班での活動2-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	11	報告会2、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。また、前期の班としての反省をする。	
	12	各班での活動3-1	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	13	各班での活動3-2	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	14	報告会3(前期振り返り)、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。また、前期の班としての反省をする。	
	15	期末試験フィードバック	夏休み期間、OCに参加する学生の確認と打ち合わせ。	
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点				
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	総合演習Ⅱ		指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p>就職に向けて実践的な知識や技術を身に着けることができる。</p> <p>①受付係:トリミング実習の際、受付をし、お客様からのオーダーを聞いたり、犬を預かったりする。</p> <p>②会計係:サロン実習の際、お客様から料金をお預かりし、領収書を渡す。また、その日の売り上げの確認と、20日メで一か月の売り上げを事務局に渡す。</p> <p>③消耗品管理、掃除係:ペット総合科で使用している用品の在庫をチェックし、補充したいものを担任に報告する。また、教室、実習室のごみ捨てを担当する。</p> <p>④SNS/掲示板係:実習の様子やカットの仕上がりの写真など、PT総合科インスタグラムに投稿する。また、教室内と廊下の掲示板にPT総合科の事に関する内容の掲示物(新聞やペット自慢等)を作成する。</p> <p>⑤オープンキャンパス係:オープンキャンパスの学生スタッフとして、来校した学生や保護者の対応、また、体験実習での実演をする。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	筆記用具、PC等			
授業外学習の方法	グループ内で共有したい情報や、学科内に発信したい情報などを考える。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	前期振り返りと後期の目標設定	各班ごとに前期の振り返りをし、こうきの活動の目標と計画を立てる。	
	2	各班での活動4-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	3	各班での活動4-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	4	各班での活動4-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	5	報告会4、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	6	各班での活動5-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	7	各班での活動5-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	8	各班での活動5-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	9	報告会5、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	10	各班での活動6-1	○各般の発表を受けて注意するポイントを意識して活動をする。	
	11	各班での活動6-2	○まとめをもとに班ごとに話し合いをし、発表に向けて準備をする。	
	12	各班での活動6-3	○学科内だけでなく、学外の人の目を意識して活動をする。	
	13	報告会6(後期振り返り)、引継ぎ、準備	各班、活動の中でうまくいったこと、反省点をまとめ報告する。次の担当になる班はそれを引継ぎ、次回からの活動の計画をたてる。	
	14	一年間の振り返り 次年度に向けての引継ぎ	1年間を通しての活動の反省をし、各班でまとめる。次年度への引継ぎや改善事項も話し合い、発表する。	
	15	期末試験フィードバック	春休み期間OCに参加する学生の確認と打ち合わせ。	
	16	期末試験フィードバック		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	ペット飼養応用学	指導担当者名	佐藤 智子
実務経験	トリミングサロンで3年以上の実務経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<科目主旨> ・動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 ・社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	筆記用具、PC		
授業外学習の方法	ペット飼養に関する関心を高める		

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	1年間で学んでいく内容についての確認、関心のある問題について共有
	2	食事の重要性①	ペット飼養においての食事に関する知識を深める
	3	食事の重要性②	
	4	基礎栄養①	動物栄養学について基本的なことを学ぶ
	5	基礎栄養②	
	6	フードの種類①	ペットフードについて学ぶ
	7	フードの種類②	
	8	介護期の食事について①	介護期の犬の食事について学ぶ
	9	介護期の食事について②	
	10	介護犬についての理解①	介護犬に対する理解を深める
	11	介護犬についての理解②	
	12	介護期の運動①	介護期の犬の運動について学ぶ
	13	介護期の運動②	
	14	期末テスト	期末テスト
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
 ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画(シラバス)

授業計画(シラバス)			
科目名	ペット飼養応用学		指導担当者名 佐藤智子
実務経験	ドッグトリミングで3年以上の実務経験がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	筆記用具、PC		
授業外学習の方法	ペット飼養に関する関心を高める		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	前期振り返り、後期の内容について
	2	猫のトリミングについて①	猫のグルーミング、トリミングについて学ぶ(種類について)
	3	猫のトリミングについて②	猫のグルーミング、トリミングについて学ぶ(作業方法と注意点について)
	4	猫のトリミングについて③	猫のグルーミング、トリミングについて学ぶ(注意点について)
	5	愛玩犬との向き合い方	愛玩犬を飼養する上での心構えを学ぶ
	6	動物業界で働くうえで①	動物業界で働くうえで大切なことを学ぶ(接客業について)
	7	動物業界で働くうえで②	動物業界で働くうえで大切なことを学ぶ(商品理解について)
	8	動物業界で働くうえで③	動物業界で働くうえで大切なことを学ぶ(働くということ)
	9	犬種理解①	様々な犬種について特徴を学ぶ(小型犬)
	10	犬種理解②	様々な犬種について特徴を学ぶ(大型犬)
	11	犬種理解③	様々な犬種について特徴を学ぶ(人気犬、飼育に注意が必要な犬)
	12	実践①	学んだことを活かし、手作りのフードを作る
	13	実践②	
	14	期末テスト	
	15		
	16		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	飼養管理士1級概論Ⅱ	指導担当者名	坂元 幸江
実務経験	動物病院にて動物看護師として20年超の実務経験がある		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	通年56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	愛玩飼養管理士1級 教本上下		
授業外学習の方法	教科書の予習復習 課題報告問題を解く		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明、使用教材についての理解
	2	第1編 動物愛護論Ⅱ	第1章 日本における動物愛護運動のおこり
	3		第2章 第二次世界大戦後の動物愛護運動
	4		第3章 動物愛護の今後の展望
	5	第Ⅲ編 動物の行動と社会	第1章 動物と法律
	6		第2章 飼養動物と関係法令
	7		第3章 野生動物と関係法令
	8	動物の行動と社会	第1章 行動とは何か、社会とは何か
	9		第2章 行動の進化・第3章 行動の自然選択
	10		第3章 ライフステージと栄養・第4章
	11		第4章 犬と猫のペットフードの進展
	12	課題報告問題	問題集1~50
	13		問題集50~100
	14	期末テスト	期末テスト
	15		
	16		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	飼養管理士1級概論Ⅱ	指導担当者名	坂元 幸江
実務経験	ペットショップ、ドッグトレーニングを2年超の実務実績がある。		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	ペット総合科 2年(選択者)
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	通年56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<p><科目主旨></p> <ul style="list-style-type: none"> 動物についての理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高める。 社会のニーズに対応できる実践的応用力を身につける。 愛玩動物を扱う者として、必要な法律の知識を習得し、広く普及啓発を行えるようにする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	愛玩飼養管理士1級 教本上下		
授業外学習の方法	教科書の予習復習 課題報告問題を解く		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	第Ⅴ編 動物の遺伝と繁殖生理	第一章 動物の遺伝
	2		第二章 動物の繁殖生理
	3	第Ⅵ編 動物の疾病とその予防	第1章動物の疾病とその予防
	4		第2章犬の疾病とその予防
	5		第3章猫の疾病とその予防
	6		第4章その他の哺乳類の疾病とその予防
	7		第5章鳥類の疾病とその予防
	8		第6章爬虫類の疾病とその予防
	9	第Ⅶ編 動物の飼養管理と公衆衛生	第1章人動物の共生に必要な公衆衛生の課題
	10		第2章人と動物の共通感染症とその対策
	11		第3章動物愛護行政と地域活動
	12	第Ⅶ編 自然と人間	第1章 自然環境と世界の働き
	13		第2章 自然環境と人間のかかわり
	14	課題報告問題	問題集101~127
	15		
	16		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p> <p>※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間
学習到達目標	・卒業生:2年間の集大成として学んだことを発揮する		
評価方法 評価基準	・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で卒業生としての集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」		
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		

学期	ターム (週)	授業計画 後期		
授業計画 後期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても 可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応	
			*学科内シフトにより登校	
			展示終了後は撤収と作品保管をする	
			事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
			履修上の留意点	個別添削を行いながら制作を進めていく

履修上の留意点

- ・出席率が80%に満たない場合は、発表機会を与えない
- ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンを実施
そこで一定の評価があれば合格とする
- ※対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施